

〈令和5年度（2023年度）〉
熊本県立美術館運営ビジョン自己評価報告

目次

I	熊本県立美術館運営ビジョンの概要	1
II	自己評価の概要	2
III	施策についての自己評価	3
1	子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館	4
2	熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館	8
3	地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館	13
4	安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館	16
IV	令和2年度から5年度までの主な成果・評価	21



熊本県立美術館運営ビジョンの概要

2020年度～2023年度
令和2年度～5年度

基本理念

運営の基本方針

推進期間

熊本の宝を守り活用し、誰もが楽しめる美術館

- 1 【展覧会・教育普及】子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
- 2 【美術品等の収集・保管・研究】熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
- 3 【地域活性化・交流促進】地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
- 4 【環境・施設整備】安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館

1 **子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館**

子どもの頃から豊かな心を育み、五感を使った体験活動等を通して、感性を磨き、感動できるような場の提供。また、美術の多様な見かたや楽しみ方を通して、多様性を尊重できる環境づくりを目指すとともに、海外等からの来館者対応の一層の充実と多様な人々の交流を促進。

- (1) **展覧会活動**
 - 総合美術館としての展覧会の充実
 - 県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実
 - グローバル化への対応
 - with コロナ・post コロナ社会への対応
- (2) **教育普及活動**
 - ① 学校や地域と連携した活動の充実
 - 教職、体験活動
 - 活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援
 - ② 幅広い年齢層が美術に親しむための取組み
 - 美術図書や資料の閲覧スペースの整備
 - 制作・発表の場としての支援活動
 - 美術鑑賞の会・サポートボランティアとの連携
 - ③ インターネット美術館の推進

2 **熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館**

水書文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の搬送を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進。

- (1) **コレクションの充実**
 - 美術品等の計画的な収集・保管・公開
- (2) **収蔵品の調査研究・成果の公開・活用**
 - 調査研究等
 - 研究成果の公開・活用
- (3) **県内美術品等の調査研究と文化財保存活動**
- (4) **専門性を高める人材の確保**
- (5) **専門性を高める取組み**

3 **地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館**

地域との交流や他の文化観光施設との連携により、魅力あるまちづくりを推進。また、県民の美術館活動への関心と理解を深めるとともに、交流人口の拡大を図るため、展覧会や各種活動に関する積極的な情報発信。

- (1) 熊本域周辺文化観光施設としての活動
- (2) 団体集客の推進
- (3) 美術館活動の情報発信

4 **安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館**

来館者にとつてやすらぎと憩いの場となる美術館をめざす。展覧会の鑑賞のみならず、来館者が美術館という空間を快適に楽しめるよう、ホスピタリティの向上を推進。

- (1) **施設の適切な管理と快適な環境の整備**
 - 安全・安心の確保
 - コニバーサルデザインの推進
 - 誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出
 - 付帯施設
 - ミュージアムショップの充実
- (2) **施設の有効活用**
- (3) **来館者満足度の向上**
 - 展覧会やサービスに関する評価に基づく改善
- (4) **経営的視点による運営・管理**
 - 収益の向上等
- (5) **ビジョンの指標と自己評価**
 - 美術館の利用者数
 - ビジョンに掲げた事業の自己評価

II 自己評価の概要

(1) 運営ビジョン自己評価の趣旨

当館では『熊本県立美術館運営ビジョン』（令和3年3月）を策定し、第4章「環境・施設整備」（5）「ビジョンの指標と自己評価」において、「外部意見等を踏まえ、自己評価を実施」と位置づけていることから、本協議会に報告し、今後の運営の改善と充実に努めるため意見を求めるものです。

○美術館本館の入場者数

年度	企画展	共催展（共通観覧）	貸会場	計
R5	19,530人 7回 延べ416日	28,546人（-人） 3回 延べ167日	37,451人 28回 延べ199日	85,527人 38回 延べ782日
R4	38,955人 8回 延べ531日	222,737人（146人） 4回 延べ161日	5,572人 5回 延べ46日	267,264人 17回 延べ738日
前年度比	50.1%	12.8%	672.1%	32.0%

Ⅲ 施策についての自己評価

自己評価シート

1	【展覧会・教育普及】 子ども頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館 展覧会活動
(1)	

1 事業の実績

- <総合美術館としての展覧会の充実>
特別展として、東京国立近代美術館の所蔵品を中心とした「20世紀美術の冒険者たち」展、大阪市立美術館の所蔵品による「美をつくしくしー大阪美術館コレクション展」を開催。教科書に掲載される名品たちを紹介した。また、細川コレクション特別展として「土方歳三資料館×肥後熊本藩」を開催。土方歳三ゆかりの歴史史料にあわせ、永青文庫が所蔵する古文書のなかから、肥後熊本藩と新選組の関係性を示す史料を展示した。さらには、美術館コレクション展Ⅳでは、「ストーリーーズ」物語る版画たち」と題し、第3室で小企画展を開催。当館及び国立西洋美術館、町田市立国際版画美術館の西洋版画コレクションによって展覧会を構成した。
- <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実>
子どもから大人まで楽しめるよう、各イベントを企画。大人向け鑑賞機会の充実として、ミュージアムセミナーを6回、特別講演会を3回開催。また小学生向けワークショップ「子ども美術館」、「かぞくでアート」を5回実施した。また、文化の日に合わせてたくまもと教育の日親子無料デーを1回、手話通訳付きギャラリートークを2回、その他様々なイベントを3回、教員向け研修を館内外合わせて5回実施した。
- <グローバル化への対応>
美術館・細川コレクション展の展覧会情報を、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語に翻訳し、美術館HP上で公開するとともに、館内にて印刷物を設置した。
- <withコロナ・postコロナ社会への対応>
来館者の検温・手指消毒・ソーシャルディスタンスの確保、など安全・安心な環境づくりに取り組んだ。また、子ども向けイベント「子ども美術館」、「かぞくでアート」では感染対策として、事前申込制にし、家族ごとに分かれての活動とした。

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <総合美術館としての展覧会の充実> 「20世紀美術の冒険者たち展」や「美をつくし」展では、いわゆる「名品」を紹介することに主眼を置き、県民に美術の流れを知って頂き、親しんで頂く機会とした。「土方展」では、熊本と新選組との繋がりを示すことで、地域史の新たな広がりを提示しつつ、グッズの制作・販売を通して、来館者への訴求力を高める取組も行った。また「ストリーズ」展では、当館の西洋版画コレクションに再び光をあてるとともに、他館の貴重な所蔵品を借用・展示した。 ○ <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実> 大人向け（ミュージアムセミナー・特別講演会）、子ども向け（「子ども美術館」）、家族向け（「かぞくでアート」）といったように、年齢層に合わせたイベントを企画・開催した。新規事業「かぞくでアート」では、未就学児から参加できるよう、幅広いプログラムを準備した。 ○ <グローバル化への対応> 展覧会情報の翻訳に当たっては、外国語でも違和感のない文章となるよう、ネイティブの翻訳者が在籍する企業に業務委託した。 ○ <withコロナ・postコロナ社会への対応> 多くのお客様に安心して来館していただくよう、感染対策の徹底のため感染防止に係る表示等を見やすく設置した。
<p>取組による成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <総合美術館としての展覧会の充実> 教科書に載る名品たちを系統立てて紹介したことは、美術館条例第1条にある「県民の美術に関する知識及び教養の向上に資する」という目的にかなうものであり、当館の基本的な役割を果たすことができたと考えられる。また「土方展」は、従来とは異なるアプローチにより展覧会を開催したという点で、当館の活動をさらに拡充する新たな取組であったといえる。 ○ <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実> 子ども向けイベント「子ども美術館」と「かぞくでアート」の区別化を図るため、前者を制作を中心とした活動、後者を鑑賞を中心とした活動へ検討する方向である。 ○ <グローバル化への対応> 近年増加しつつある英語圏以外の言語（特にアジア）対応 ○ <withコロナ・postコロナ社会への対応> 「5類感染症」に変更によりその対応が変更されたが、基本的な感染対策として今後の取組についてはその状況に応じて検討が必要である。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <総合美術館としての展覧会の充実> 学芸員の育成及び展覧会企画会社等への積極的な情報収集。 ○ <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実> 活動内容をその都度検討しながら、今後も継続的に取り組んでゆく。 ○ <グローバル化への対応> 来館者の所有するICT機器の翻訳機能活用を呼びかけていく。 ○ <withコロナ・postコロナ社会への対応> 国や県の方針等を踏まえて、状況に応じて対応を行っていく。

自己評価シート

1	【展覧会・教育普及】 子ども頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
(2)	教育普及活動

1 事業の実績

- ① <学校や地域と連携した活動の充実>
- ・未就学児から参加可能な家族まで楽しむワークショップを2回実施した。
 - ・生向けワークショップ「子ども美術館」を実施。受入形式では、子どもたちを美術館へ招待する新規事業「ミュージアムパス」を実施。4校（バス6台）を受入れた。
 - ・学校団体の利用や子どもたちが展覧会をより身近に楽しめる手立てとして、展覧会に合わせたワークショップ（4種類）や豆本を作成、配付した。
 - ・館内外にて、計5回の教員向け研修を実施。美術館やアートカードを活用した鑑賞教育を普及した。
- ② <幅広い年齢層が美術に親しむための取り組み>
- ・貸会場として4つの展覧会に会場を提供した。当館主催の展覧会の開催や、工事による休館（3カ月程度）のため、件数は例年より少ない結果となった。
 - ・サポーターボランティアは大学生から80代の幅広い年齢層が登録。イベント運営や図書・資料・ポスター等の整理・保管作業等に定期的に取り組んだ。
 - ・未就学児から大人まで幅広い年齢層が美術館へくるきっかけとなるよう、年齢層別にイベントを計画。大人向けイベント9回、子ども向けイベント5回、年齢制限なしイベントを4回、親子無料デーを1回実施した。
- ③ <インターネット美術館の推進>
- ・コロナ禍でも自宅で楽しめる「おうちで美術館」をホームページやX、Instagram、YouTubeで配信。所蔵作品ぬりえの配信や、当館の収蔵品を紹介する「ポケット学芸員」の導入など、自宅でも美術を楽しめる活動に取り組んだ。

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実> ・「スクールミュージアム」や「ミュージアムバス」事業では、学校の実態や要望に応じて、計画書を作成。打ち合わせを重ねながら、効果的な学びとなるように努めた。 ・ワークショップを作成するだけでなく、ワークシートの内容を告知するチラシを別途作成。県内全小中学校、特別支援学校等に配布し、周知を図った。</p> <p>② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み> 未就学児から大人まで幅広い年齢層が美術館へくるきっかけとなるよう、年齢層別にイベントを計画実施した。</p> <p>③ <インターネット美術館の推進> コロナ禍においても自宅で展覧会を楽しめるコンテンツとして、ホームページやSNS等で配信した。</p>
<p>取組による成果と課題</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実> 「スクールミュージアム」と「ミュージアムバス」はともに好評を得た。ただし「ミュージアムバス」事業では、学校の希望日とバス会社との空き状況が合わず、会社選定に苦労した。募集の方法を見直す必要がある。</p> <p><幅広い年齢層が美術に親しむための取組み> 家族で参加できるワークショップ「かぞくでアート」などの実施を通して、幅広い年齢層にわたって鑑賞を楽しめるような機会を設けた。</p> <p>② <インターネット美術館の推進> X、Instagram、YouTubeを発信できるが、来館動機へ繋がる継続的な取組が必要となる。</p>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実> 今後の「ミュージアムバス」の募集については、募集の時期、方法を見直す必要がある。</p> <p>② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み> 各展覧会のメインタナーゲットとなる層以外へのアピールの手法の検討</p> <p>③ <インターネット美術館の推進> 来館動機につながるバラエティーに富んだ配信を行うべく、職員全員でコンテンツを作成・配信できる体制づくりに取り組む。</p>

自己評価シート

2 (1)	<p>【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館</p> <p>コレクションの充実</p>
1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊本県立美術館収集方針」に基づき、収集活動を行った。熊本ゆかりの延寿国幸作の刀剣や脇差、ジャック・ヴィヨンの原画に基づいて制作した版画、加藤清正の文書など、寄贈作品10点を収集した。 ・収蔵品保管については、常時湿度を記録し、IPM、空気環境調査を定期的に行うことで、作品保管・展示環境の維持に務めた。また、収蔵品情報をデータベース化し、令和5年度収集分までの全ての収集作品情報をインターネットで公開した。
2	<p>工夫と成果・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開> <ul style="list-style-type: none"> ・収集については、美術商、コレクター等から積極的に候補作品に関する情報を集めた。また、当館での調査・研究の蓄積を活かすべく、以前から寄託されていたコレクションの情報を精査し、重要と判断される作品について交渉し、寄贈を受けた。 ○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本の美術史を研究する上で重要な作品を所蔵することになり、コレクション展示の幅が広がった。また各収集委員からは、作品の質や収集の意義に関して高い評価を得ることが出来た。 ・データベース化により収蔵品管理や活用効率向上したが、システム応用の幅が広いため、操作には習熟が必要。また、今後はコンスタントに新収蔵品の情報を登録・更新してゆく必要がある。 ・所蔵品や借用品が損傷することはなかったが、収蔵庫の空調フィルターや温湿度自記録計など、保管管理に係る器具類の中には老朽化したものがある。 <p>取組による成果と課題</p>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースシステムの操作方法の習熟に努めるとともに、新収蔵品情報に関する登録作業のルーティン化を図る。 ・保管管理に係る器具類については、予算を確保し順次更新していく。

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(2)	収蔵品の調査研究・成果の公開・活用

1	<p>事業の実績</p> <p><調査研究等> 〇 県教育委員会文化課が実施した横山大観作「雲去来」の修復費用を募るガハメントクラウドファンディング®に協力し、作品の損傷状況や横山大観の日本画の魅力を発信するための調査・撮影・動画配信を行った。</p> <p>〇 <研究成果の公開・活用> 美術館コレクションII展において、令和4年度に収集した熊本ゆかりの洋画家の作品を中心に洋画作品を展示し、熊本の戦後美術の流れを紹介した。また、令和4年度に完了した永青文庫所蔵資料調査で新たに確認された文化財の紹介を行った。</p>
---	---

2	<p>工夫と成果・課題等</p> <p>取組において工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇 <調査研究等> 「雲去来」修復の必要性を分かりやすく紹介するため、作品の細部を高精細デジタル画像で撮影し、動画形式で編集してSNSに公開した。 〇 <研究成果の公開・活用> 新収蔵品などの公開にあたっては既存のコレクションとの関連性の中で展示を行うよう工夫した。 <p>取組による成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇 <調査研究等> 高精細画像を用いて「雲去来」の魅力や作品の損傷状況を動画形式で説明することにより、修復の必要性を一般の方にも分かりやすく伝えることができた。今後は着実に修復を実施するとともに、修復状況についての報告を継続的に発信していく必要がある。 〇 <研究成果の公開・活用> 収蔵品の分野によっては公開・活用の機会が減っているものもあり、分野バランスを考慮して展示を行う必要がある。 <p>課題に対する今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇 <調査研究等> XなどのSNSを活用し、年2、3回のペースで修復の進捗状況についての報告を行う。 〇 <研究成果の公開・活用> 年間を通して収蔵品の公開バランスを考えながら展示公開を行う。
---	---

自己評価シート

2	<p>【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館</p>
(3)	<p>県内美術品等の調査研究と文化財保存活動</p>
1	<p>事業の実績 熊本県内からの市町村からの依頼による仏神像調査などを行ったほか、「土方歳三資料館×肥後熊本藩」開催に向けた関係史、資料等の調査研究を行った。また、当館や熊本県伝統工芸館に保管される富重写真所資料について、文化庁による調査の対応を行った。</p>
2	<p>工夫と成果・課題等</p> <p>取組において工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土方歳三資料館×肥後熊本藩」開催に向けた調査では、新選組と肥後細川藩という、これまで顧みられなかった両者の関係性について、永青文庫が所蔵する膨大な古文書から丹念に検証した。 ・富重写真所資料調査では、所蔵者と文化庁調査官、本県文化課との感情のズレをでなくすよう、接触の機会を多くとれるよう調整した。 <p>取組による成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「土方歳三資料館×肥後熊本藩」展に向け、熊本大学に寄託されている永青文庫資料（細川家文書）の調査を実施。その結果、新選組と熊本藩に関する新たな知見を数多く得ることができた。その成果は展覧会で発表し、来館者にも驚きをもって迎えられ、かつ幕末史の研究から注目を受けた。これは永青文庫所蔵資料に新たな価値が加えられたことを意味する。 ・山間所在の文化財情報が得られたことで、将来の災害時における文化財レスキューに備えた基礎情報を地元自治体と共有し、集積することができた。調査成果については、将来の災害時における文化財レスキューに役立てるべく、情報の管理・更新が必要。 ・富重写真所資料は多種多様な分野と、膨大な点数によって構成されているため、1年間では全点の調査が終了しなかった。また、所有者が高齢化しているため、保管体制の見直しが求められる。 <p>課題に対する今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人宅や寺社等、美術館外にある美術品・文化財をめぐる状況は日々変化している。継続的に調査・撮影を行い、情報の更新に努める。また、情報の開示・公開に際しては、個人情報漏洩がないよう注意する。 ・富重写真所資料の調査を継続し、保管体制の合理的な方法を文化庁と協議する。

自己評価シート

2 (4)	<p>【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館 専門性を支える人材の確保</p>						
1	<p>事業の実績 令和4年度に教育普及担当学芸員を採用。</p>						
2	<p>工夫と成果・課題等</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="544 1839 687 2078">取組において工夫した点</td> <td data-bbox="544 208 687 1839"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="687 1839 847 2078">取組による成果と課題</td> <td data-bbox="687 208 847 1839"> <p>令和2年以来当館では、日本近代美術、西洋美術、教育普及と新たな人材を確保してきたが、今後はそうした人材の専門性を継続的に育成する必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="847 1839 1026 2078">課題に対する今後の対応</td> <td data-bbox="847 208 1026 1839"> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会及び研究会の受講。 ・各学芸員が専門とする分野に関する展覧会の企画・実施。 </td> </tr> </table>	取組において工夫した点		取組による成果と課題	<p>令和2年以来当館では、日本近代美術、西洋美術、教育普及と新たな人材を確保してきたが、今後はそうした人材の専門性を継続的に育成する必要がある。</p>	課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会及び研究会の受講。 ・各学芸員が専門とする分野に関する展覧会の企画・実施。
取組において工夫した点							
取組による成果と課題	<p>令和2年以来当館では、日本近代美術、西洋美術、教育普及と新たな人材を確保してきたが、今後はそうした人材の専門性を継続的に育成する必要がある。</p>						
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会及び研究会の受講。 ・各学芸員が専門とする分野に関する展覧会の企画・実施。 						

自己評価シート

2	<p>【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館</p>
(5)	<p>専門性を高める取組み</p>
1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野に関する研究会及び研修会へ参加した。 ・「20世紀美術の冒険者たち」展において、対話型鑑賞を学ぶ場を設けた。
2	<p>工夫と成果・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「20世紀美術の冒険者たち」展協賛社向けイベントの際に招聘した東京国立近代美術館の教育普及担当研究員に対話型鑑賞ワークショップを実施してもらったこと、当館の教育普及担当職員が対話型鑑賞の手法を学ぶ場となった。 ・「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」の基礎コースに、当館の学芸員が参加。博物館空調やIPM、防災などについて学んだ。 ・西洋美術担当学芸員が国立美術館による「キュレーター研修」に申請・採択され、令和6年度に受講予定である。
取組における成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東京国立近代美術館教育普及担当研究員からは、「対話型鑑賞は実践が重要」との助言を受けた。今後当館の教育普及専門職員には、ギャラリートークなどで実践を重ねてもらう必要がある。 ・作品保存は複数の職員が関わるため、「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」のような研修については、当館内でも複数の学芸員が受講しておく必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及担当学芸員には、「かぞくでアート」やギャラリートークなどにおいて、対話型鑑賞実践の場を作るようにする。 ・作品保存の技術は日進月歩であるため、教年後には方法や考え方が更新される可能性がある。そのため数年空けた後に同種の研修を受講できるよう、準備しておく。

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(1)	熊本城周辺文化観光施設としての活動

1 事業の実績

・熊本城周辺施設連携会議に参加し、各施設の状況把握や情報共有を図った。

※コミュニケーションに関する取組については4-(2)に記載。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	-
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設のイベントや入場者数等の情報共有ができたこと、担当者同士のつながりができたことが最大の成果である。また、会議出席者はメールで一斉連絡ができたため、イベント時や、災害時等には各施設の情報共有に活用できようになった。 ・二の丸広場でのイベントの際、当館開催中の展覧会の広報活動実施など、周辺施設と連携を強化しながら取組を進めることができた。 ・一方で、数年にわたり各関係施設がコロナ禍による休館や入場制限などを余儀なくされたため、計画的にイベントを連携させるなどの実施にはつながっていない。
課題に対する今後の対応	熊本城周辺施設と一体となったイベントなど、人流が循環するような枠組みを定型化できるよう、施設を周遊するイベント等に積極的に参画していく。

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(2)	団体集客の推進

1 事業の実績

熊本県教育委員会などの職員が福利厚生事業として、一定数利用した。そのほか、医師会婦人会の団体鑑賞なども見られた。また、児童・生徒の団体鑑賞も行われた。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	-
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の団体旅行については年々減少しており、全体の1割程度となっている。 ・ 地元の関係団体の研修や学校教育の一環としての鑑賞に向けて、広報を行う必要がある。
課題に対する今後の対応	熊本市教育委員会をはじめとした関係団体との連携強化

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(3)	美術館活動の情報発信

1 事業の実績

<ul style="list-style-type: none"> ・各展覧会のポスター・チラシ、年間スケジュール、広報誌『View』を作成して、県内の学校やホテル、県外の美術館等に配布し、展覧会や美術館活動の広報に取り組んだ。 ・英語版や中国語版、韓国語版の年間スケジュールを作成して美術館HPに掲載し、日本語話者以外への広報に務めた。 ・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど約40の情報媒体へ展覧会情報等を提供することで、当館の発行物及びウェブサイトに限らない情報拡散に務めた。 ・インターネットを利用した情報発信において、SNS分野でX(旧Twitter)とInstagramの活用の充実を図った。更新頻度の向上に取り組むとともに、記事内容を工夫することにより、利用者の関心を高める取り組みを行った。 <p>※令和6年4月10日現在でX(フォロワー数：6,521人)、Instagram(フォロワー数：1,702人)。</p>
--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	SNS(X及びInstagram)では、展覧会やイベントに関する記事のみならず、展覧会の裏側を伝える記事を投稿することで、若年層に見てもらえるよう情報発信の内容を工夫した。
取組による成果と課題	主要展覧会のアンケート集計結果によると、当館の来館者は50代以上が過半数を占め、若年者の来館が少ない傾向がある。若年層に向け、SNSで拡散されている情報の傾向分析とその活用が求められる。
課題に対する今後の対応	XとInstagramは、来館動機につながるパラエティニーに富んだ配信を行うべく、職員全員でコンテンツを作成・配信できる体制づくりに取り組む必要がある。

自己評価シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
(1)	施設の適切な管理と快適な環境の整備

1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> <ul style="list-style-type: none"> ・設備管理等担当者と情報共有、連携を図りながら安全・安心で快適な館内環境を整えるよう務めた。 ・警備・受付・監視・設備管理等関係機関と協議を行い、樹木伐採を実施した。 ・樹木調査を踏まえ関係機関と協議を行い、樹木伐採を実施した。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> <ul style="list-style-type: none"> 赤ちやん連れ・車いす利用者など、誰もが利用できるように、多目的トイレ（オストメイト対応、ユニバーサルシート設置）を活用できるよう、お声がけを工夫した。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> <ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップにおいて下記の取り組みを進めた。 ○ <付帯施設> <ul style="list-style-type: none"> カフェにおいて展覧会をイメージしたメニューを期間限定で提供するなど、展覧会の利用者に向けてカフェの運営主体と連携して取り組んだ。 ○ <ミュージアムショップの充実> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、長く完売していた作品に加え、新たに「新善富嶽図」や「熊本城図」、「細川ガラシャ消息」など16種類のポストカードを作成販売した。また、細川コレクシオン「二の丸☆バードウォッチング」展に合わせて、孔雀図の来民うちわを作成販売した。 アールブリュット作品で人気の作家渡邊藝絃さんの切り絵作品の取り扱いを開始した。
---	--

2	<p>工夫と成果・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> <ul style="list-style-type: none"> 開館前に受付・監視等、日々の業務の中で各担当が、気になる点や発生した案件・その対応など互いに情報共有を図るためのミーティングを毎日実施し、早急に必要な対応ができるような体制を構築した。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の視点に立ち、お声かけ、人的サービスを心がけた。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> <ul style="list-style-type: none"> ○ 付帯施設 ○ <ミュージアムショップの充実> <ul style="list-style-type: none"> ・前年に作成した「松に虎・竹に虎図屏風」の来民うちわが完売したことから、当館で人気の作品「黒き猫」でも来民うちわを作成・販売開始し商品の充実を図った。 ・物価高騰からレジ袋の有料化を開始したが、会期が終了した展覧会のポスターやチラシを利用した無料の封筒を作成・利用し好評を得ている。 <p>取組において工夫した点</p>
---	--

<p>取組による成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> 多くのお客様が来館された際にも、引き続き安全・安心で快適な環境を整えられるよう、警備・受付・監視・設備管理等担当者との連携を深めていく必要がある。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> ・赤ちゃん連れ・車いす利用者、歩行が難しい方々などが、利用しやすい環境となるとともに、職員がさまざまな配慮を要する来館者がおられることを認識するきっかけとなった。 ・建物の構造上、赤ちゃん連れ、高齢者、障害のある方等の利用が厳しい状況にある部分については、人的対応での取組をさらに推進する必要がある。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> エントランス等に設置している他館のチラシ等の資料の設置方法や設置場所が、美術館という空間にマッチするよう、さらに推進する必要がある。 ○ <付帯施設> お客様が多い時間帯の待合方法などの対応について、カフェ運営会社と情報共有しながら適切に対応していく必要がある。また、利用者増に向け、展覧会に合わせたメニューの提供なども検討が必要である。 ○ <ミュージアムショップの充実> ・昨年課題としていた、古い商品について絵はがきはリニューアルを行った。値札については、事務的な印象のテプラを使用せず、フォント等の統一を行った。 ・課題として、古い図録が増えたことから、一度価格等の見直しを検討を行う。
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> 情報共有を更に深めるとともに、来館者視点での場の提供、改善に務めていく。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> 人的対応においてさらに意識が高まるよう情報共有が必要である。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> 建築物としても価値のある施設であるため、資料等の設置については、設計者である前川國男氏のデザインやコンセプトを意識してレイアウト等を行う。 ○ <付帯施設> 基本的なお客様対応をはじめ、メニューの開発等についてもカフェ運営会社と協議し、イベント時の対応等を明確化する。 ○ <ミュージアムショップの充実> 新たな商品を作成し、グッズを充実させ来館者の満足度を上げる。

自己評価シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
(2)	施設の有効活用

1	事業の実績 熊本市商業金融課 (STREET ART-PREX事務局) や熊本県コンベンション協会など関係団体と実施に向けての情報交換を行った。
---	--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	
取組による成果と課題	イベントの実施時期、時間帯、飲食を伴う場合の場所の設定など、ユニークベニューの実施に向けての具体的な課題を整理する必要がある。
課題に対する今後の対応	他の美術館や博物館等の実施事例等を参考に、当館の実現可能性や条例との整合性を整理したうえで実施要綱を定める。また、並行して、実施を希望する企業等と連携し、可能なものから実施する。

自己評価シート

4	【環境・施設整備】 安全・安心でやさりと憩いの場を提供する美術館
(3)	来館者満足度の向上

1 事業の実績

○	<p>< 展覧会やサービスマニエールに関する評価に基づく改善 ></p> <p>各期の展覧会に対するアンケートによって要望を集約し、充実した作品展示とわかりやすい解説、子どもに向けた展覧会ワークショップ作成、鑑賞者と作る参加型展示の取り組みへ反映させた。結果として、通期での「展覧会の満足度」の高評価（5段階評価中、5及び4）は89.7%、「解説のわかりやすさ」の高評価は81.0%となった。</p>
---	--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<p>○ < 展覧会やサービスマニエールに関する評価に基づく改善 ></p> <p>第三期美術館コレクション展において、作品解説はあえて作品の「かたち」についての記述のみとし、自由に鑑賞を楽しめる環境づくりを行った。また併せてギャラリートークも対話型鑑賞形式にするなど、新たな取り組みを行った。</p>
取組による成果と課題	<p>○ < 展覧会やサービスマニエールに関する評価に基づく改善 ></p> <p>撮影可能な作品の画像のSNSへの投稿が可能かを表示してほしいとの要望が寄せられたためホームページで周知するなど迅速に対応した。</p> <p>細川コレクション特別展として開催した「土方歳三資料館×肥後熊本藩」は、くまもととコラボしたオリジナルグッズ、新選組と肥後熊本藩との関係を明らかにした図録の作成などもあり、幅広い層の観客にアピールし、別棟の展示室でこれまでの最高記録となる観客数を動員する展示となった。</p>
課題に対する今後の対応	<p>○ < 展覧会やサービスマニエールに関する評価に基づく改善 ></p> <p>教育普及学芸員と展覧会担当学芸員の間での意見交換を通じて、展覧会の内容ごとに最適なものになるよう取り組んでいく。</p>

自己評価シート

4	<p>【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館</p>
(4)	<p>経営的視点による運営・管理</p>
1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <収益の向上等> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな協賛企業を開拓（2社）した。 ・「土方歳三資料館×肥後熊本藩」展において、オリジナルグッズを作成・販売。好評を博し、大幅な収益を得た。
2	<p>工夫と成果・課題等</p>
取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○ <収益の向上等> <ul style="list-style-type: none"> ・協賛社向けイベントを立案・提示することで、展覧会に協賛することへのメリットを増やした。また、協賛社向けイベントでは、東京国立近代美術館から教育普及担当研究員を招聘。対話型鑑賞を試験的に実施し、当館における教育普及活動の実験の場とした。 ・オリジナルグッズの作成にはデザイナーを起用。統一的で優れたデザインによるグッズを作成することが可能となり、売り上げにも大きく影響したと考えられる。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ <収益の向上等> <ul style="list-style-type: none"> 協賛社向けイベントは大変好評であり、今後新たな協賛先を開拓するうえでも有効な手立てと考えられた。ただしイベントの規模があまりに大きくなると継続が困難になる。しかし協賛社が相手であるが故に、一定の特別感も必要。継続可能性と特別感とのバランス調整が重要と考えられる。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ <収益の向上等> <ul style="list-style-type: none"> 継続可能な協賛社向けイベントの立案・計画。

IV 令和2年度から5年度まで（計画期間）の主な成果・評価

○全体総括

（成果）

- ・計画期間当初は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により休館を余儀なくされた時期があったが、総合美術館として、永青文庫所蔵品をはじめとする国内外の美術、歴史資料に加えて、アニメなどのサブカルチャーなど幅広い分野の展覧会を開催。加えて、人気オンラインゲームなどの新たな取組により、子どもから高齢者まで幅広い年代の観客を呼び込むことができた。特に本館（ジブリパークとジブリ展）、別棟（土方歳三資料館×肥後熊本藩展）において過去最大の動員数を達成した。
- ・令和4年度に教育普及担当学芸員を採用し、教育普及活動に関する体制を強化したことによりミュージアムバス事業、「かぞくでアート」などの新たな取組を開始した。
- ・コロナ禍で県外からの情報が届き難くなった中ではあったが、本県ゆかりの美術品・歴史資料に主眼を置き、271点を収集した。
- ・文化課とともに横山大観作「雲去来」の修復費用のためにガバメントクラウドファンディングへの協力を呼びかけたことで、現在行っている修復に着手することができた。
- ・開館から48年を経過し、施設・設備の老朽化などが進んでおり、修繕の必要な個所が散見される状況であるが、空調施設の修理やバリアフリー化、危険防止対策としての樹木伐採など、安全安心・快適な空間づくりに向けて迅速に対応した。

（指標）

総入館者数 152,470人

（評価）

- ・令和4年度の総入館者数（267,264人）をもって指標を達成しており、十分な成果を上げた」と評価する。
- ・個別の取組について、毎年度美術館協議会での自己評価・審議及び来館者アンケート等を踏まえて改善を図っており、自己評価は十分な役割を果たした」と評価する。

(成果の詳細)

1 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館

(1) 展覧会活動

常設展として開催した細川コレクションにおいては、永青文庫の所蔵品を中心に広く県民に鑑賞機会を提供した上で、「雅-細川家の歴史と美」展（令和4年度）における人気ゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボグッズ作成や刀剣男子等身大パネル展示、土方歳三資料館との共催により実施した「土方歳三資料館×肥後熊本藩」展（令和5年度）などにより、若い女性が多く来館するなど、幅広い年齢層の集客に成功した。

また、西洋美術の歴史と変遷をたどる企画ともいえる「美の旅 西洋美術400年 珠玉の東京富士美術館コレクション」（令和4年度）、当館に加え東京国立近代美術館や高松市美術館の所蔵品により日本の近現代美術作品を広く紹介した「20世紀美術の冒険者たち」（令和5年度）、大阪市立美術館のコレクションから古美術から近代美術までの名品を集めた「美をつくし 大阪市立美術館コレクション」（令和5年度）など幅広い時代・地域の名品の鑑賞機会を提供するとともに、ジブリパーク誕生の舞台裏を紹介した「ジブリパークとジブリ展」（令和4年度）も開催するなど、幅広い年代層をターゲットに展覧会を実施し、特に「ジブリパークとジブリ展」は過去最大の動員を記録するなど、多くの観客を呼び込んだ。

(2) 教育普及活動

従来から行ってきた県内の学校を対象に出向く巡回展「スクールミュージアム」に加えて、令和3年度から美術館を訪れる機会が少くない地域の学校を対象にバスを借り上げて美術館に招待する「ミュージアムバス事業」、未就学児童を含む家族を対象とした鑑賞ワークショップ「かぞくでアート」を開始した。

また、令和4年度には、県立美術館所蔵作品等をカードにした鑑賞ツール「アートカード・セット」を作成し、美術鑑賞の入り口となるように、学校への貸し出しを開始した。

これらの取り組みもあり、令和5年度には県外も含む95校（約2,511人）の幼・保・学校が団体利用を行った。また、令和2年度に所蔵品データベースを新システムに移行。WEB上で公開した。また一部常設展示作品等に関して、画像や解説をスマートフォンで閲覧できるアプリケーション「ポケット学芸員」での公開を開始した。

2 熊本ゆかりの美術品を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館

(1) コレクションの充実

令和2年度は熊本地震で被災した家屋からレスキューされた築山家絵画資料、坂本善三作品及び資料など、全16点、令和3年度は熊本近代洋画の先駆者である青木彝蔵による《風景》など、購入2点と寄贈238点の計240点、

令和4年度は藏本朝美の油彩画1点、寄贈4点の計5点、令和5年度は延寿国幸作の刀剣や脇差、ジャック・ヴィヨンがピカソの原画に基づいて制作した版画、加藤清正の文書など寄贈作品10点を収集した。

(2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用

当館に保管する永青文庫所蔵資料の鎧・兜などの武器武器、能面・能道具、婚礼調度などの大名道具1,470件について、令和4年度に調査を終了した。これらの成果は調査報告書のかたちで公開するとともに、調査作品は寄託を受けた。これらの成果は調査報告書のかたちで公開するとともに、調査作品は寄託を受け、順次公開した。

令和5年度には、県教育委員会文化課が実施した横山大観作「雲去来」の修復費用を募るガバメントクラウドファンディングに協力し、併せて作品の損傷状況や横山大観の日本画の魅力を発信するための調査・撮影・動画配信を行った。

(3) 県内美術品等の調査研究と文化財保存活動

令和2年度に福井県及び京都府に所在する横井小楠関係資料の調査と保存活動、そして熊本県に所在する平安時代の仏像彫刻と関係がある大分県天福寺奥の院仏像群の調査、令和4年度に文化財保存活動の一環として、玉東町・稲佐熊野神社の社殿修理にあたり、安置されている神像の調査を行った。

(4) 専門性を支える人材の確保

令和2年度に日本近代分野の学芸員を、3年度に西洋美術分野の学芸員を、4年度に教育普及分野の学芸員を新たに採用した。

(5) 専門性を高める取り組み

令和4年度に教育普及担当学芸員を採用し、各専門分野、著作権等関係法令に関する研修会への参加、他館で開催されている展覧会の視察、他館学芸員との共同調査などにより資質向上に努めた。

3 地域と協働し、魅力ある街づくりを推進する美術館

(1) 熊本城周辺文化観光施設としての活動

コロナ禍によるイベントの開催見合わせの影響を受けたが、令和2年度には「くまもとお城まつり」の期間中に2日間の夜間開館（20時まで）し、ナイトミュージアムコンサートも開催した。また令和4年度には熊本国際観光コンベンション協会との共同でユニークベニューの利用促進実証実験を行った。

- (2) 団体集客の推進
期間のほとんどがコロナ禍の影響下にあったため、団体旅行者など他地域からの集客は困難だったが、熊本県教育委員会や警察本部の職員が福利厚生事業の一環として数多く来館し、授業の一環として、小中学生の団体鑑賞が行われた。
- (3) 美術館活動の情報発信
当館では、X (旧 Twitter)、Instagram により情報発信を行ってきたが、「刀剣乱舞」とのコラボグッズ作成や、ジブリパークとジブリ展開催などを契機に、X のフォロワー数が大幅に増加した (令和 4 年 1 月 3,070 人 → 令和 6 年 4 月 6,521 人)。美術館の認知度を高めるとともに、今後の展覧会に関する情報発信の受け皿となる層を獲得したと考えている。
- 4 安全安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
- (1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備
令和 2 年度に吹抜ホールに、大人から子ども・車いす利用者も利用できる高低差のある給水器を 2 基設置し。トイレ改修では、赤ちやん連れ・車いす利用者など、誰もが利用できるように、手すりやチャイルド・チェアを設置した。多目的トイレは、オストメイト対応とした。
- (2) 施設の有効活用
令和 3 年度にユニークベニューの取組として、展示室内で日本舞踊・箏・尺八による演奏イベントを実施。
- (3) 来館者満足度の向上
毎回展覧会の開催に合わせて、展覧会の内容に関する質問を加えたアンケート用紙を作成し、来館者の意向を確認している。そのうえで、その都度対応を行い、満足度は 90% 程度となっている。
- (4) 経営的視点による運営・管理
展覧会ごとに協賛金を募り、毎回民間企業数社からの支援を得ている。また、「土方歳三資料館 × 肥後熊本藩」展で作成したオリジナルグッズについては、従来のもの比べて大きな収益を得た。